

3 長野県立大学

(1) 概要

所在地	長野市三輪8-49-7
学長	金田一 眞澄 (初代学長、H30.4.1~)
敷地面積	40,249.14 m ²
建物面積	27,113.48 m ²

(2) 学生数

(令和元年5月1日現在) (単位:人、%)

区分	総定員 (A)	在学者数					充足率 (B) / (A)
		1年	2年	3年	4年	計(B)	
グローバルマネジメント学部	340	174	170	—	—	344	101.2
グローバルマネジメント学科	340	174	170	—	—	344	101.2
健康発達学部	140	70	72	—	—	142	101.4
食健康学科	60	30	31	—	—	61	101.7
こども学科	80	40	41	—	—	81	101.3
計	480	244	242	—	—	486	101.3

(3) 教職員数

(令和元年5月1日現在) (単位:人)

学長	教授	准教授	講師	助教	助手	事務職員	計
1	28	23	8	6	5	52	123

(4) 教育課程内容

学 部	学 科	主 な 内 容	取得できる 免許・資格
グローバル マネジメント 学部	グローバル マネジメント 学科	<p>○グローバル・ビジネスコース 経営学、経済学、会計学、法学などの企業経営に関する知識を修得し、現代のビジネスには不可欠な「グローバルな視野」で組織を動かす、物事を変えていくマネジメント力や実践力を養成。</p> <p>○企（起）業家コース 起業、事業承継、第二創業に関する知識を修得し、広い視野と柔軟な発想により、社会や地域の課題を解決するための新たな事業を立ち上げる構想力や実践力、起業家マインドを養成。</p> <p>○公共経営コース 行政組織や地方自治制度などの公共経営に関する知識を修得し、地域課題を解決するための企画立案力や実践力を養成。</p>	
健康発達学部	食健康学科	栄養学を中心として、食物や人体に関する専門知識・技術を修得し、エビデンス（科学的根拠）に基づき、人を対象として栄養マネジメントを行うことができる実践力を養成。	管理栄養士国家試験受験資格、栄養教諭1種免許、栄養士
	こども学科	大学での学びを通して、新たな保育の創造や保育・子育ての課題解決を行うことができる専門性と実践力を修得し、将来の保育・幼児教育のリーダーとなる人材を育成。	保育士、幼稚園教諭1種免許

(5) 地域貢献活動

ア 産学官連携の主な取組

① 自治体・企業等との連携

県、市町村及び企業等と連携し、互いの長所を活かしながら地域におけるソーシャル・イノベーションを創出するため、新たな展開につながる取組を行った。

具体的には、県内初となる「信州ソーシャル・イノベーションフォーラム 2019」（概要は下記②）を7月に開催するとともに、県佐久地域振興局、佐久市及び豊丘村と連携し、同フォーラムのプレイベントを2回開催した。

また、新たな包括連携協定を、須坂市（6月）、KDD I (株)及び（一社）長野ITコラボレーションプラットフォーム（通称：NICOLLAP）（11月）、長野工業高等専門学校（1月）とそれぞれ締結した。さらに、飯山市の「飯山グッドビジネス」、中野市の「わくわく信州なかの100人会議」、県企画振興部、木曾・

北信地域振興局や飯山市が行う女性や若者、地域おこし協力隊向けの起業塾の実施等を支援した。加えて、本学教員による学術的地域貢献として、教員の専門的知見を活かし、乳幼児教育、鷹狩り伝承、食育等について県、市町村等から5事業を受託し実施するなど、専門的知見を地域へ還元する取組を行った。

② 「信州ソーシャル・イノベーションフォーラム 2019」の開催

県内の行政機関職員（県・市町村）と全国の気鋭の社会起業家とのマッチングを図る県内初の試みとして、長野県及び長野市と共催で、かつ、日本ユニシス㈱の特別協賛を得て、7月30日に本学三輪キャンパスにて開催し、184人の参加者を得た。全国で地域課題解決に向けた先進的な取組を行う社会起業家等12人（11社）をゲストに招き、行政機関職員に取組を紹介するなど両者のマッチングを図る県内でも初の取組であり、行政機関が民間事業者と連携して行う革新的な課題解決方法を学ぶ機会となった。今後、具体的な行政施策への反映が期待される。



[信州ソーシャル・イノベーションフォーラム 2019]

③ SDG s 支援の取組

ソーシャル・イノベーション創出センター（以下「CSI」）の職員が中心となり、関係機関と連携しながらSDG sを切り口とした事業者支援に取り組んだ。

具体的には、県や市町村主催の各起業塾（計10回）、信州環境カレッジ（計4回）、長野高専技術振興会総会（5月）、大北三村議会議員研修（7月）、県内企業研修（2回）において、チーフ・キュレーター及びCSI職員がSDG sに関する講演等を行った。

また、国と連携した新たな取組として、チーフ・キュレーターが農林水産省の「持続可能な生産消費形態のあり方検討会」の座長を務め、同省主催により2月に開催された「SDG s × 生物多様性シンポジウム」においては、全国初となる同省のサテライト中継を本学において実施した。



[農水省シンポジウムサテライト中継]

イ 地域連携の取組

① 地域の人的・物的資源を事業創造に結び付ける取組や事業者・創業者等の支援（CSI）

飯山市と連携し、アドバイザー・メンバーの知見を活かしながら「飯山グッドビジネス」を実施することにより、事業者のブラッシュアップによる地域活性化を支援した。

また、中野市の新たな事業創造に向けた「わくわく信州なかの100人会議」の企画を支援したほか、県内企業が自社の資源を再発見して新たな事業創造に結び付ける取組の支援（C S Iセンター長による講演）を行った。

さらに、飯山市の「いいやま女性起業塾」、県北信地域振興局「地域おこし協力隊起業塾」、県木曾地域振興局による女性・若者を対象とした「K I S O 女性わか者起業塾」の実施を支援し（チーフ・キュレーターによる講義）、女性や若者、地域おこし協力隊による社会的起業を促進した。



[K I S O 女性わか者起業塾]

② 県長野保健福祉事務所との連携事業（食健康学科）

県長野保健福祉事務所との連携で、2年次の学生3人とともに、2月28日、県庁食堂ししとうで「働き盛りの健康づくり」事業を実施した。長野県民の健康づくり支援のための食環境整備の一環として、食堂利用者を対象に、食塩の過剰摂取と野菜摂取量の減少という食生活の課題解決を目的とした適切な食事並びに情報の提供を行った。その結果、経過評価からは利用者並びに食堂スタッフから、正しい情報収集と行動変容の動機付けになったとの評価を得た。さらに、県長野保健福祉事務所との振り返り会議においても、今後、県民の健康づくり支援として更なる食環境整備に継続活用することとなった。



[食堂での食事指導の様子]

③ 学生を主体とした地域子育て支援（こども学科）

こども学科の「ひろば」、「プレイルーム」に地域の親子が自由に遊びに来ることができる環境を整備し、「地域貢献サークルぐるんぱ」の学生が主体となって子育て支援の取組、「親子のひろば」を企画・運営した。「親子のひろば」は計11回開催し、参加者延べ385組、約800人の親子などが利用した。また、保護者向け子育て新聞「ぐるんぱニュース」を計6回発行した。

加えて、本企画のリーダーとなっている学生5人が、長野県内・北海道・千葉県・福岡県の保育及び地域子育て支援関係施設の視察を行い、先進的取組について学び、広場運営に生かした。



[親子のひろばの様子]



[北海道の施設視察の様子]

④ 子育て講座、子育て支援担当者の連携協議会の開催（こども学科）

地域で子育てをする保護者（親子）を対象に「ママとねんねちゃんのおしゃべりカフェ」（計4回、延べ31組63人参加）、「新米ママ&パパのための子育て講座」（計3回、延べ46組92人参加）を実施した。これらの活動には、保護者支援の実際を学ぶことを目的として保育者をめざす学生も運営スタッフとして参画した（学生延べ92人参加）。

また、子育て中の親子に関する情報共有や関係機関の連携を目的として、長野市や周辺地域の地域子育て支援の実務担当者を対象とした協議会を開催した。行政関係者のほか、子育て支援センター職員、保育関係者、助産師など、地域で子育て支援、虐待対応などに取り組む多様な関係者との連携を図った（計2回、延べ28人参加）。



[新米ママ&パパのための
子育て講座の様子]

ウ 学びの場の提供

① 県民や学生に対する多様な学びの機会の提供

地域に開かれた大学として、2018年度に引き続き、「信州ソーシャル・イノベーション塾」、「専門職向け起業塾」、「コラボ公開講座」を開催した。また、新たな取組として、先進的な取組を行う経営者をゲストに迎え「経営者トークライブ」を開催したほか、旧出前講座をリニューアルした「デリバリー・アカデミア」の運用を開始した。さらに、県からの依頼によりC S Iが受け入れたブラジルからの海外技術研修員と学生が、講義やイベント（エシカルクッキング等）を通じて交流し、互いの文化を知る貴重な機会となった。

② 県内教育機関との連携

1月31日に長野工業高等専門学校と包括連携協定を締結した。本学として教育機関との初の連携協定であり、専門が異なる両者の連携により、教員・学生の相互交流を通じて新たな知の創造や人材育成の向上が今後期待される。また、県内高校の人材育成に資するため、飯山高校探究科授業や小諸商業高校「高校生向け起業家教育事業」（中小企業庁事業）、木曾青峰高校「未来の学校構築事業」（県教育委員会事業）等の実施をC S I教職員が支援した。



[包括連携協定（長野高専）]

③ 学生による地域との連携・交流の主な取組

各種団体が開催するイベント等に希望する学生を積極的に参加させるなど、C S I と地域コーディネーターが学生による地域との連携・交流を促進した。

(6) 一般講座

ア 信州ソーシャル・イノベーション塾 ※連続講座 (全5回)

開催場所：長野県立大学 (後町キャンパス)

開催日	テーマ	講師	受講者数
9月27日 10月18日 11月22日 12月20日 1月24日	セルフマネジメント (マインドフルネス) とデザイン思考をベースに、「違うものをつくりだす」こと	稲塚 聡一郎氏 (Transform LLC. 共同創業者・パートナー) 中村 珠希氏 (epiQ Co., Ltd. 取締役)	11名

イ 専門職向け起業塾 ※連続講座 (全3回)

共催：日本開業保健師協会長野研究会 開催場所：長野県立大学 (後町キャンパス)

開催日	テーマ	講師	受講者数
6月19日 8月6日 9月6日	保健医療福祉専門職向け起業塾「起業編」	秋葉 芳江 (長野県立大学ソーシャル・イノベーション創出センター チーフ・キュレーター)	5名

ウ コラボ公開講座

共催：長野ミライ会議 開催場所：長野県立大学 (後町キャンパス) ほか

開催日	テーマ	講師	受講者数
5/13	「長野ミライ会議」をデザインする ～今、作りたい場・聞きたい話をプレストしよう～	大宮 透氏 (長野ミライ会議メンバー) ほか	延べ約 450名
7/3	地域を舞台にした教育プロジェクトの可能性	園利 一郎氏 (学校法人角川ドロンゴ学園)	
8/2	信州とアジアのつなぎ方を考えよう	山田 崇氏 (塩尻市役所)	
8/7	つながりの力で自分の人生を生きるには？ ～「成人発達理論を实践する5つの旅」を体験する参加型ワークショップ	町塚 俊介氏	
10/7	社会を面白くする学生団体・NPOのはじめ方	池本 修悟氏 ((一社) 社会創発塾 代表理事、(公社) ユニバーサル志縁センター 専務理事)	
12/3	台風発生から50日。いま、私たちができることって何だろう？	阪本 真由美氏 (兵庫県立大准教授)、徳永 虎千代氏 (長野アップルライン復興プロジェクト代表)	
12/13	最初的一步は「マネする」ことから!! ～長野で高校生向けプログラムを4年やって気づいたこと～	関口 真司氏 (パーソルプロセス&テクノロジー(株)所属)	
2/21	ティールから考える、トップダウンではない組織のつくりかた	嘉村 賢州氏 (東京工業大学リーダーシップ教育院特任准教授)	

エ 経営者トークライブ

開催日	テーマ	講師	受講者数
10/16	IKEUCHI ORGANIC が挑戦し続ける持続可能性	阿部 哲也氏 (IKEUCHI ORGANIC(株) 代表取締役社長)	24名

オ デリバリー・アカデミア (旧. 出前講座) ※運用開始：11月1日から

申込者	開催日	場所	テーマ	講師	受講者数
佐久穂町立 佐久穂中学校	11月1日	佐久穂中学校 体育館	だれでもできる 哲学対話	馬場 智一准教授	165名

カ ながのシニアライフアカデミー (NaSLA) ※10期生1学年、連続講座
共催：長野市・信州大学 開催場所：長野県立大学 (三輪・後町キャンパス)

開催日	テーマ	講師	受講者数
5月18日	入学式・オリエンテーション	—	29名
	地域産業の活性化～長野県のワイン産業～	尹 大栄 教授	
5月22日	課外活動 (交流会)	張 勇 教授	
6月25日	コミュニケーションの方法～話の聴き方について～	藤田 勉 教授	
	地方自治と地域づくり～国と自治体、住民と自治体政府の関係～	三浦 正士 助教	
7月16日	哲学カフェをやってみる	馬場 智一 准教授	
	健康づくりと運動	張 勇 教授	
8月20日	ボランティア活動について	NPO法人	
9月10日	いきいき生活をめざすための栄養管理入門～中年期から高齢期に応じた健康のものさしの考え方～	稲山 貴代 教授	
	地域の食材とシニアの健康食 (調理実習)	上延 麻耶 講師	
10月15日	善光寺門前のまちづくりをめぐるエクスカージョン	築山 秀夫 教授	
11月22日	地域活性化と地域協働～みんなでつくる地域の元気～	東 俊之 准教授	
	ICT活用論 ～インターネットと地域の関わり～	萱津 理佳 准教授	
12月19日	運動とコミュニケーションの重要性	寺沢 宏次 信州大教授	
2月8日	終業式・特別講演会	金田一真澄 県立大学長	